

表 2. ペアレントトレーニング各回の流れの例

ペアレントトレーニング 2回目

内容	時間	進行形式	担当
1. 受付時、課題を一枚、もらう。番号の書いた封筒をお渡しする。封筒の中に今回の課題とプリント類をいれておく	0	全体	A/B
2. 2グループに分かれて座ってもらう(自由)	0	全体	A
3. アイスブレイキング (バックトーク/フロントトーク)	5	全体	A/B
4. 前回の課題の状況を一人2分ずつで話をしてもらう	15	2グループ	A/B
5. 感覚の過敏さ、鈍感さの説明 (4グループに分かれて)	8	全体	A
6. アクティビティセンター (4グループに分かれて) 話し合い	25	全体	A
7. 休憩 Tea Time	15		
8. 褒め方の学習 説明 ロールプレイ提示	8	全体	A/B
9. 褒め方の学習 参加者同士でロールプレイ	15	2グループ	A/B
10. ご家庭での課題の説明 褒めることを習慣にする	5	全体	A
合計	96		

*受付、アンケートの配布、回収、お茶の用意等は、状況を見て2人で協力して実施

表 3. 「家族の自信度調査票 (confidence Degree Questionnaire: CDQ)」の変化

	事前		事後		p 値
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	
1.あなたは、子どもの成長をかせらず見守る	6.6	1.7	7.6	1.4	0.085
2.あなたは、子どもに自分自身でできることをやらせる	6.6	1.9	7.7	0.9	0.046
3.あなたは、1日1回以上子どもを褒める	8.7	1.4	8.9	1.1	0.676
4.あなたは、子どものリラックスできる場所をつくる	6.9	1.9	8.6	1.2	0.025
5.あなたは、子どもの仲間作りを助ける	6.4	1.9	6.9	1.3	0.402
6.あなたは、子どもの不適応行動に対処する	6.4	1.4	7.8	1.1	0.027
7.あなたは、子どもの問題で学校に対して適切な対応をする	7.6	1.4	8.0	0.9	0.420
8.あなたは、子どものことであなた自身を責めることを減らす	5.8	2.1	7.0	0.8	0.071
9.あなたは、子どもに関するあなたの不安を減らす	5.3	2.1	7.1	1.0	0.007
10.あなたは、自身の健康状態や楽しみのために時間を使う	5.2	1.8	6.9	1.8	0.021
11.あなたは、子どもの行動による家族内のいさかいを減らす	5.6	1.4	7.8	0.8	<0.000
12.あなたは、子どもに対する援助を他の家族にも行ってもらう	5.2	2.4	6.6	2.2	0.101
13.あなたは、あなたひとりで悩まずに、心配事は家族や友人に相談する	6.3	2.8	7.3	1.8	0.145
14.あなたは、同じような問題をもつ子どもの家族と気持ちを共有する	7.0	2.2	8.0	1.7	0.145
15.あなたは、必要な時に、医療、教育、相談機関を利用する	7.6	2.0	8.1	1.7	0.167
16.あなたは、子どもの行動考えが理解できる	6.0	1.5	7.7	1.4	0.003
17.あなたは、子どもと一緒にいて楽しい	7.7	2.1	8.5	1.8	0.038
合計	110.6	20.3	130.4	13.0	0.010

表 4. 「子どもの気になる行動」についての親の認識

子どもの気になる行動	事前				事後				p 値
	4.しばしばある	3.時々ある	2.あまりない	1.ない	4.しばしばある	3.時々ある	2.あまりない	1.ない	
① 図書館・映画観る・スーパーマーケット・その他の公共の場で走り回る	3(27.3%)	6(54.5%)	2(18.2%)	0(0.0%)	3(27.3%)	5(45.5%)	2(18.2%)	1(9.1%)	0.157
② 家庭・幼稚園保育園での食事の途中や集団行動の場で席を離れる	6(54.5%)	4(36.4%)	1(9.1%)	0(0.0%)	1(9.1%)	10(90.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0.102
③ 親の言うこと（指示）を聞かない	6(54.5%)	4(36.4%)	1(9.1%)	0(0.0%)	5(45.5%)	5(45.5%)	1(9.1%)	0(0.0%)	0.564
④ お約束をしても守らない	4(36.4%)	6(54.5%)	1(9.1%)	0(0.0%)	2(18.2%)	7(63.6%)	2(18.2%)	0(0.0%)	0.257
⑤ 大きな声で泣き叫んだり、かんしゃくを起こす	5(45.5%)	6(54.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4(36.4%)	6(54.5%)	1(9.1%)	0(0.0%)	0.317
⑥ 小さな子やお友達をたたいたり、かみついたりする	0(0.0%)	2(18.2%)	7(63.6%)	2(18.2%)	0(0.0%)	5(45.5%)	5(45.5%)	1(9.1%)	0.102
⑦ お友達のをものを断りなく、触ったり、使ったりする	4(36.4%)	4(36.4%)	3(27.3%)	0(0.0%)	4(36.4%)	4(36.4%)	3(27.3%)	0(0.0%)	1.000
⑧ 遊びの場面で、ルールや順番を守ることができない	2(18.2%)	6(54.5%)	3(27.3%)	0(0.0%)	2(18.2%)	7(63.6%)	2(18.2%)	0(0.0%)	0.705

表 5. ペアレントトレーニングの「学校との連携」についての意見・感想

主な内容	記載内容
園や学校と積極的に連絡を取っていききたい	<ul style="list-style-type: none"> ・入園がこれからのなので、この教室で学んだことを生かしていきたい ・療育教室と4月からは公立幼稚園との併用になるが、自分から積極的に声をかけ、情報を伝えていきたい。 ・今まで幼稚園で4月から保育園に入るので、しばらく様子をいろいろ報告してもらおうと思っている。 ・連絡帳に記入したり、送り迎えの時に時間を作って話をするようにしている。今まで幼稚園で4月から保育園に入るので、しばらく様子をいろいろ報告してもらおうと思っている。 ・先生の手を煩わせないように、連絡も最小限にしていたが、子どものいじめをきっかけに頻繁に担任の先生と会うようにした。毎回送り迎えをするようにもした。
できるだけ先生と連絡を取り合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・園の帰りにできるだけ担任の先生と話をするようにしている。 ・気になることがあったら何でも先生に相談する。先生からの連絡、注意、お願などを真剣に聞く。 ・療育教室での支援計画内容や心理検査(発達検査)の結果や、このように対応するとよいといわれた点を担任の先生に連絡帳で伝えている。
先生に聞くことに遠慮や迷いがある	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の先生とはあまり話す時間が取れないので、手紙を書いて日々あったことや伝えたいことを書くようにしている。 ・細かな様子は聞けないので、うるさく聞いてもいいのだろうかと迷ってしまう。本人はほとんど話さないのでトラブルがあったとして気が付いてあげられない。 ・その都度先生と細かく話し合ったり、お願いする機会をたくさん持つようにしている。でも都度イライラしたり、うまく伝わらなくて焦り、不安が募る2年でした。しかし、話すことでかなりのことは解決できた。 ・人数が少ない幼稚園なので、うちの子供が目立ってしまうので、先生にどこまで求めていいのかわからない。
半年に1回程度状況を確認	<ul style="list-style-type: none"> ・半年に1回くらい、担任の先生に園の状況を聞いている。

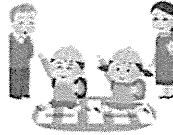
表 6. 市町村保健部門と保育所・幼稚園との連携の質を確認するためのチェック事項

あり	準備中	なし(計画なし)	番号	幼稚園・保育所の活動	項目	市町村の側の活動	番号	あり	準備中	なし(計画なし)
			1	保護者からの相談窓口を設置している	相談窓口	保育士などが専門家に相談できる窓口や担当者を配置している	1			
			2	自組織の活動の文書化・明確化している	組織編成	自組織の活動の文書化・明確化している	2			
			3	特別支援教育コーディネーターが選任されている		連絡が取りやすいよう組織編成を工夫している	3			
			4	就学先に情報を提供する際のルールがある	進学先との連携	入園時に進学先に情報提供するためのルールがある	4			
			5	進学先の小学校の先生が園に来て、観察するなど連携の機会を設ける		他組織に情報提供するためのフォーマットがある	5			
			6	保護者の許可を取って、通園施設の様子を見学に行く						
					妊産期からの母親との信頼関係形成	母子健康手帳交付時から母子保健担当者との関係性を形成している	6			
						乳幼児健診の未受診者のフォローを実施している	7			
			7	特別支援コーディネーターが3歳児健診前に市に園での様子を伝える	幼児健診での対応	1歳6か月児健診のフォロー事業を実施している	8			
			8	園長やコーディネーターが3歳児健診の様子を保健師に尋ねる		3歳児健診のフォロー事業を実施している	9			
			9	園側から積極的に保健センターに情報収集をはかる		3歳児健診のフォロー事業に保育士の参観を認めている	10			
						保育園、幼稚園の入園後の4・5歳児が参加できる健康教室がある	11			
			10	定期的な巡回相談を市に要望する	巡回相談のあり方	巡回相談の専門スタッフが子どもの経過を追って見られるようになっている	12			
			11	気になる子がいる場合、巡回相談の希望を積極的に市に出す		巡回相談の臨床心理士には継続した数日を観察できるようにしている	13			
			12	巡回相談後の園での対応や時の変化を報告する		巡回相談の専門家は集団の中でも子どもの様子をよく観察する	14			
						発達相談を受診させる際に巡回相談の集団での観察事項を申し送る	15			
						巡回相談に市の子育て担当の保健師も参加する	16			
			13	子育て支援ネットワーク等に参加している	連携会議	子育て支援ネットワーク会議等が定期的開催されている	17			
			14	気になる事例を会議に報告している		子育て支援ネットワーク会議等に必要の関係者が参加している	18			
			15	親の国籍や家庭環境など発達支援がしにくい状況を把握し、関係者に情報提供できる		子育て支援ネットワーク会議等でケース検討が行われる	19			
			16	保育士と保健センター保健師が協力して親を受診するよう説得する		子育て支援ネットワーク会議等で関係者が互いを信頼し、インフォーマルな相談に乗れる	20			
						議事録を作成している	21			
						支援者の能力が向上する	22			
						支援が広がる	23			
						特別支援担当者会議等を開催している	24			
					特別支援担当者会議等に保健師が参加している	25				
					特別支援担当者会議等で事例検討会を行っている	26				
					特別支援担当者会議等で指導力向上の研修が企画される	27				
					指導者の能力が向上する	28				
			17	病院受診をした子は主治医に面会する	専門医受診	専門医を紹介して、受診までの待ち期間は2カ月以内である	29			
						専門医に紹介をした場合の受診状況を確認する	30			
			18	前前後期で個別支援計画を立て、評価している	園側の努力					
			19	特別支援コーディネーターが中心となって園全体で共通理解をはかる						
			20	通園施設の専門家と保育士が個別事例で情報交換をする						
			21	気になった子どもについては保育士間で情報交流する						
			22	園全体で指導方針を確認していく必要がある						
			23	保護者に園での様子を見てもらい、発達相談を進める						
			24	健診で見つからなかった子どもでも保育園で気になった場合は受診につなげている						
			25	入園前の情報をもとに保育環境を検討する						
			26	地区懇談会を活用し保護者が意見を出すよう勧める	行政に声を届ける努力	地区懇談会を活用し保護者が意見を出すよう勧める	31			

ペアレントトレーニング

- ・ 外出先などでの困りごと
- ・ 学校や保育園との連絡

6 回目



学校：

通級学級・特別支援学級・特別支援学校

- ・ 普通学級 小学校1・2年は30-35名以下の学級
- ・ 通級学級 特別支援教育の制度の一つで、通常の学級に在籍しながら個別的な特別支援教育を受ける制度
- ・ 特別支援学級 特別支援学級の定員は8人
すべての学校に特別支援学級が設置されているわけではなく、学区を超えて通学する児童生徒もいる
- ・ 特別支援学校 障害に応じた教育を行う
幼稚園、小学部、中学部、高等部等

スライド2

学校でできる対応

- ・ 教員の加配
 - 学習支援が必要な児童生徒への支援の充実
- ・ 特別支援教育
 - 「個別の教育支援計画」⇒「個別の指導計画」
 - 「個別の教育支援計画」：関係機関の連携による乳幼児期から学校卒業後まで一貫した支援を行うための教育的支援の目標や内容等：保護者の参画
 - 「個別の指導計画」：児童生徒一人一人のニーズに応じた指導目標や内容、方法等
 - 特別支援コーディネーター
保護者や関係機関に対する学校の窓口

スライド4

ADHDを持った子供への学校の配慮の事例

- ・ 教科ごとに使う教材をリストアップしたラミネート加工したシートを作ってもらった
- ・ 席を前の方にしてもらった
- ・ 注意散漫なので、窓際の席を避けてもらった
- ・ 授業中及びその他の活動時に全体に対する指示を出した後、個別に声かけをお願いした
- ・ 書き取りが苦手なので、宿題はドリル書き写しではなく、ノートに下書きをしてもらうか、プリントを用意してもらった
- ・ 連絡帳をチェックしてもらって、記載漏れがないように声かけをもらった
- ・ 先生との連絡帳を作った

スライド6

幼稚園・保育園・学校との連携

・ 保護者と教師の双方がお互いのコミュニケーションを求めているが、.....。

○ 困っていることはありませんか

- ・ 先生が子供の特性を理解してくれない
- ・ 先生の対応に信頼感が持てない
- ・ 気にしすぎといわれる
- ・ 伝えても実施してもらえない
- ・ 就学先を悩んでいる
- ・ 就学相談を受けたほうが良いかどうか、悩んでいる

スライド1

就学相談について

- ・ 早期からの教育相談・支援を踏まえて、市町村教育委員会が、保護者や専門家の協力を得つつ個別の教育支援計画を作成する（文部科学省：特別支援教育の推進について：通知）
- ・ A市の場合
A市教育委員会の教育相談
教育部：教育指導課

スライド3

保育園・幼稚園・学校の先生に何を伝えるのか

- 発達障害の種類ときっかけとなった気がかりなポイントはできるだけ具体的なエピソードを出しながら話す
- メモを予め用意しておくとなんか自分が話したいのかを整理できる。
- ・ 同年代や大人とのコミュニケーション
- ・ 外出したり、多人数の場面での様子
- ・ 食事の様子、感覚の様子で気になること
- ・ こだわり等がある場合、その状況と対応方法について

スライド5

図1. 今回のペアレントトレーニングの「学校等との連携の」で使用したスライド資料

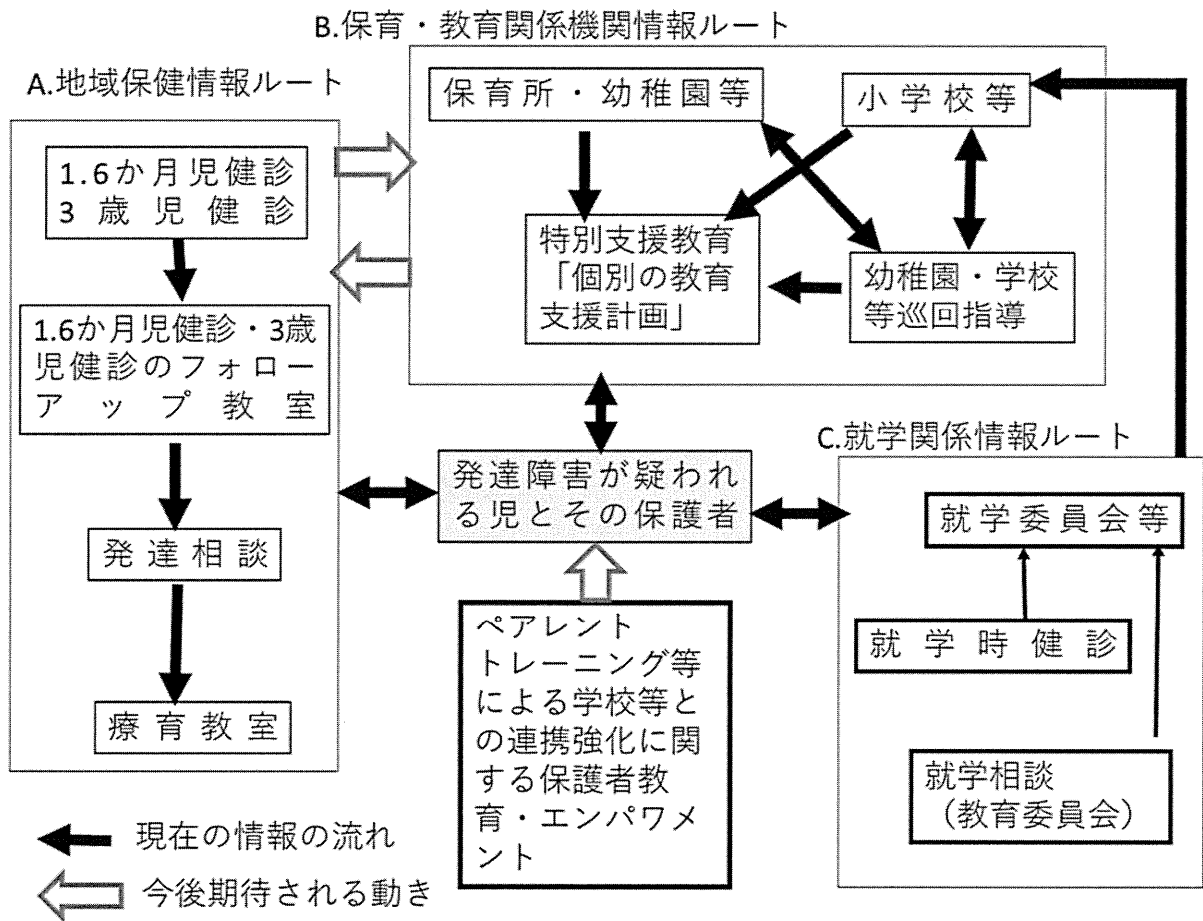


図2. 発達障害が疑われる児の情報の流れと、保護者への情報活用教育としてのペアレントトレーニングの位置づけ

事前アンケート

下記の質問にお答えください

A あなたのお子さんの年齢について教えてください

子ども第一子 () 歳

子ども第二子 () 歳

子ども第三子 () 歳

B お子さん以外で、同居されているご家族すべてに○とつけてください

夫 妻 父(義父) 母(義母) その他()

C 子育てに関するあなたのお気持ちを教えてください

「できる」気持ちを10とし、「できない」気持ちを1としたとき、あなたの気持ちに近いものはどれですか

	できる	できない
1.あなたは、子どもの成長をあせらず見守る	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
2.あなたは、子どもに自分自身でできることをやらせる	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
3.あなたは、1日1回以上子どもを褒める	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
4.あなたは、子どものリラックスできる場所をつくる	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
5.あなたは、子どもの仲間作りを助ける	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
6.あなたは、子どもの不適応行動に対処する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
7.あなたは、子どもの問題で学校に対して適切な対応をする	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
8.あなたは、子どものことであなた自身を責めることを減らす	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
9.あなたは、子どもに関するあなたの不安を減らす	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
10.あなた、自身の健康状態や楽しみのために時間を使う	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
11.あなたは、子どもの行動による家族内のいさかいを減らす	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
12.あなたは、子どもに対する援助を他の家族にも行ってもらう	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
13.あなたは、あなたひとりで悩まずに、心配事は家族や友人に相談する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
14.あなたは、同じような問題をもつ子どもの家族と気持ちを共有する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
15.あなたは、必要な時に、医療、教育、相談機関を利用する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
16.あなたは、子どもの行動考えが理解できる	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	
17.あなたは、子どもと一緒にいて楽しい	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	

D お子さんは下記の行動はありますか

① 図書館・映画観る・スーパーマーケット・その他の公共の場で走り回る

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

② 家庭・幼稚園保育園での食事の途中や集団行動の場で席を離れる

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

③ 親の言うこと（指示）を聞かない

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

④ お約束をしても守らない

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

⑤ 大きな声で泣き叫んだり、かんしゃくを起こす

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

⑥ 小さな子やお友達をたたいたり、かみついたりする

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

⑦ お友達のをものを断りなく、触ったり、使ったりする

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

⑧ 遊びの場面で、ルールや順番を守ることができない

4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

E. あなたの性別は 1 男性 2 女性

F あなたの年齢は _____ 歳

ご協力ありがとうございました。

事後アンケート

ペアレントトレーニングにご参加いただきまして、ありがとうございました。

下記の質問にお答えください

A 子育てに関するあなたのお気持ちを教えてください

「できる」気持ちを10とし、「できない」気持ちを1としたとき、あなたの気持ちに近いものはどれですか

	できる	できない
1.あなたは、子どもの成長をあせらず見守る	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
2.あなたは、子どもに自分自身でできることをやらせる	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
3.あなたは、1日1回以上子どもを褒める	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
4.あなたは、子どものリラックスできる場所をつくる	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
5.あなたは、子どもの仲間作りを助ける	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
6.あなたは、子どもの不適応行動に対処する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
7.あなたは、子どもの問題で学校に対して適切な対応をする	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
8.あなたは、子どものことであなた自身を責めることを減らす	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
9.あなたは、子どもに関するあなたの不安を減らす	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
10.あなた、自身の健康状態や楽しみのために時間を使う	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
11.あなたは、子どもの行動による家族内のいさかいを減らす	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
12.あなたは、子どもに対する援助を他の家族にも行ってもらう	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
13.あなたは、あなたひとりで悩まずに、心配事は家族や友人に相談する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
14.あなたは、同じような問題をもつ子どもの家族と気持ちを共有する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
15.あなたは、必要な時に、医療、教育、相談機関を利用する	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
16.あなたは、子どもの行動考えが理解できる	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
17.あなたは、子どもと一緒にいて楽しい	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

B お子さんは下記の行動はありますか

- ① 図書館・映画観る・スーパーマーケット・その他の公共の場で走り回る
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない
- ② 家庭・幼稚園保育園での食事の途中や集団行動の場で席を離れる
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない
- ③ 親の言うこと（指示）を聞かない
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない
- ④ お約束をしても守らない
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない
- ⑤ 大きな声で泣き叫んだり、かんしゃくを起こす
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない
- ⑥ 小さな子やお友達をたたいたり、かみついたりする
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない
- ⑦ お友達のをを断りなく、触ったり、使ったりする
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない
- ⑧ 遊びの場面で、ルールや順番を守ることができない
4.しばしばある 3.時々ある 2.あまりない 1.ない

C.保育園、幼稚園、学校との連絡などで困っていることや心がけていることなど

--

D.ペアレントトレーニングに対するご意見など

--

ご協力ありがとうございました。

最終評価調査（子育て）のデザインと解析

研究分担者	尾島 俊之	（浜松医科大学健康社会医学講座教授）
研究協力者	土岐 篤史	（浜松医科大学健康社会医学講座大学院生）
研究協力者	安田 孝子	（浜松医科大学臨床看護学講座教授）
研究協力者	杉浦 和子	（名古屋市立大学大学院看護学研究科講師）
研究協力者	大澤 絵里	（国立保健医療科学院国際協力研究部主任研究官）

「健やか親子21」最終評価において、「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」（課題3）についての状況を明らかにすること、また「健やか親子21（第2次）」において、「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」（基盤課題C）についての目標設定の考え方等を明らかにすること、そして、特に「妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合」（指標C-2）について、今後の効果的な活用について明らかにすることを目的とした。研究方法として、研究班全体で実施した調査データおよびその他のデータを用いて、平成25年度は「健やか親子21」最終評価のための解析および結果の評価を、平成26年度は「健やか親子21（第2次）」の目標設定のための解析を行った。平成27年度は、就労妊産婦を対象としたインターネット調査を実施した。分析の結果、「健やか親子21」最終評価として、課題3の22指標のうち、目標を達成6指標、目標に達していないが改善14指標、変わらない1指標、悪くなっている1指標であった。「健やか親子21（第2次）」では、基盤課題Cについて目標とする8指標と、参考とする5指標を設定した。就労妊産婦を対象としたインターネット調査では、職場から配慮をされたと思う人66.3%、勤務時間や仕事内容について自分から配慮を希望した人36.1%、そのうちだいたい実現した人65.0%、マタニティハラスメントを受けたことがある人30.7%であった。

A. 研究目的

「健やか親子21」最終評価において、主として「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」（課題3）についての状況を明らかにすること、また「健やか親子21（第2次）」において、主として「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」（基盤課題C）についての目標設定の考え方等を明らかにすることを目的として研究を行った。さらに、「健やか親子21（第2次）」における「妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をさ

れたと思う就労妊婦の割合」（指標C-2）について、平成26年度に実施したベースライン調査において91.0%が配慮をされたと回答しており、天井効果によって顕著な改善が見込みにくいことから、妊娠中の職場における配慮についての目標指標として、今後の効果的な活用について明らかにするとともに、今後の支援方策の重点を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 「健やか親子21」の最終評価

平成25年度は、同年度に研究班全体で、全国から無作為抽出した市町村の乳幼児健診受診者を対象として実施した調査データおよびその他のデータを用いて、「健やか親子21」最終評価のための解析および結果の評価を行った。

2. 「健やか親子21（第2次）」の目標設定

平成26年度は、前年度および同年度に研究班全体で実施した調査データおよびその他のデータを用いて、「健やか親子21（第2次）」の目標設定のための解析を行った。

3. 就労妊産婦の支援に関する調査

平成27年度は、就労妊産婦を対象としたインターネット調査を実施した。具体的には、携帯サイト『ママニティ』（会員約3万人）に登録している妊婦および産婦に参加を呼びかけて、平成27年9月にインターネット上で調査を行った。調査に当たっては、サイト上で調査の趣旨等の説明を行い、同意が得られた場合に匿名で回答をしていただいた。なお、この調査は浜松医科大学医の倫理委員会の承認を得て行った（承認番号E15-092）。

C. 研究結果

1. 「健やか親子21」の最終評価

「健やか親子21」最終評価として、課題3の22指標のうち、目標を達成6指標、目標に達していないが改善14指標、変わらない1指標、悪くなっている1指標であった。

2. 「健やか親子21（第2次）」の目標設定

基盤課題Cについて目標とする5指標と、参考とする5指標を設定した。

3. 就労妊産婦の支援に関する調査

調査には166人から回答が得られた。調査の数量的な結果を表1～4に示す。職場から配慮をされたと思う人は66.3%であった。勤務時間や仕事内容について自分から配慮を希望した人36.1%、そのうちだいたい実現した人65.0%であった。だいたい実現した人は、全体の中では26.5%であり、また配慮を希望し、かつだいたい実現した人は回答者全体の中では（39/166＝）23.5%であった。マタニティハラスメントを受けたことがある人30.7%であった。

雇用形態としては、正社員が53.0%と最も多く、次いで、パート・臨時雇用であった。その他としては、いずれの分類に入るかが微妙なもので、例えば「音楽教室で講師として働いている。雇用形態としては自営とされています」、 「正社員になるまえのアルバイト期間」などの記載がみられた。出産後の就労状況は、育児休業後に復帰47.0%が最も多く、次いで、退職21.1%であった。出産時の年齢は、30～34歳37.3%が最も多かった。現在の子どもの年齢は、妊娠中が最も多く、年齢が上がるにつれて少なくなる傾向であった。会社の規模は、10人以上（～50人未満）19.9%、100人以上（～500人未満）17.5%が多かった。地方は、中部、東京が多かった。

会社の規模別の分析では、妊娠中の配慮が最も多かったのは官公庁85.7%、最も少なかったのは50人以上（～100人未満）44.4%であった。配慮を希望した割合は、最も多かったのは100人以上（～500人未満）58.6%、最も少なかったのは1万人以上8.3%であった。希望した配慮が実現したかについて、だいたい実現したとの回答が最も多かったのは官公庁71.4%、最も少なかったのは1万人以上0.0%であった。反対に、ほとんど実現しなかったとの回答が最も多かったのは50人以上（～100人未満）17.7%であった。マタニティハラスメントが最も多かったの

は100人以上（～500人未満）48.3%、最も少なかったのは1,000人以上（～1万人未満）11.8%であった。

雇用形態別の分析では、妊娠中の配慮が最も多かったのは正社員73.9%、最も少なかったのは派遣20.0%であった。配慮を希望した割合は、最も多かったのは正社員40.9%、最も少なかったのは派遣およびその他20.0%であった。希望した配慮が実現したかについて、だいたい実現したとの回答が最も多かったのはパート・臨時雇用30.9%であった。反対に、ほとんど実現しなかったとの回答が最も多かったのは派遣20.0%であった。マタニティハラスメントが最も多かったのはパート・臨時雇用30.9%、最も少なかったのは自営0.0%であった。

地方別の分析では、妊娠中の配慮が最も多かったのは東京55.2%、次いで中四国54.5%、最も少なかったのは九州13.3%であった。配慮を希望した割合は、最も多かったのは東京55.2%、最も少なかったのは九州13.3%であった。希望した配慮が実現したかについて、だいたい実現したとの回答が最も多かったのは中四国45.5%、最も少なかったのは九州6.7%であった。反対に、ほとんど実現しなかったとの回答が最も多かったのは近畿および九州13.3%、最も少なかったのは中部3.1%であった。マタニティハラスメントが最も多かったのは九州53.3%、最も少なかったのは中四国18.2%であった。

また、記述回答について抜粋した結果を表5～表10に示す。

D. 考察

就労妊産婦の支援に関する調査について、調査対象である携帯サイト利用者のごく一部の回答であったことから、今回の調査に関心の強い人や、訴えたいことがある人に偏った回答となっている可能性があること、また回答

者数が比較的少なかったため偶然誤差が大きいことに留意して結果を解釈する必要がある。

職場から配慮をされたと思う人は、66.3%であり、過半数の妊婦は職場から配慮をされていた。一方で、平成26年度山縣班調査では、「妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思いますか」との問いに、はい91.0%、いいえ8.0%、無効回答1.0%となっており、配慮されたと思う人の割合はその数値よりもかなり低い結果となった。調査方法および回答者の違いの影響が大きいと考えられる。

勤務時間や仕事内容について、自分から配慮を希望した人のうち、だいたい実現した人65.0%であり、前述の職場から配慮をされたと思う人と概ね同じ割合であった。一方で、配慮を希望し、かつだいたい実現した人は回答者全体の中で23.5%であった。改めて配慮を希望しなくても、配慮がなされる環境が理想であるとも考えられるが、日々、体調や状況が変化する中で、その変化を妊婦本人が周囲に伝えることも重要であるとも考えられる。そこで、今後、職場における妊婦への配慮に関する指標として、自分から配慮を希望し、かつだいたい実現した人の割合を用いるという考え方もありえよう。

マタニティハラスメントを受けたことがある人は3割に達していた。この調査の回答者には偏りがあるとしても、少なからず妊婦がマタニティハラスメントを経験していることが明らかとなった。さらに、表9に示す切実なエピソードが寄せられた。マタニティハラスメントへの実効性のある対策が必要である。

会社の規模別の分析では項目によって若干の特徴があるものの、官公庁は妊娠中への配慮が高く、一方で、50人以上500人未満の規模の会社では厳しい状況のところが多い傾向であった。

雇用形態別には、正社員が最も妊娠中の配慮

があり、次いで、パート・臨時雇用も正社員と概ね同程度の状況であった。一方で、派遣は、過酷な状況に置かれていることが伺われ、今後、派遣の妊婦への支援について強化する必要性が高いと考えられた。自営は、記述回答の内容からも、誰かに配慮をしてもらおう立場でないため、自ら頑張るしかない状況にあり、身体的な負荷が非常に大きくなっているおそれがあると考えられた。

地域別の分析では、九州において妊娠中の配慮が少なく、一方で、中四国、東京等で配慮が良好である傾向が見られた。一方で、山縣班による平成26年度調査では、妊娠中の配慮について明確な地域差は見られなかったため、慎重な解釈が必要である。

妊娠中や育児中に、職場や行政などから提供して欲しい情報、また仕事との両立のために、期待したいことについては、行政・社会への期待、職場への期待、保育関係に大別することができた。行政への期待としては、産休育休、軽易業務転換、危険有害業務の就業制限、時間外労働・休日労働・深夜業の制限などについての法令を遵守させる仕組みが求められている。また、母性健康管理指導事項連絡カードを活用した、勤務時間の短縮、フレックスタイム制度による時差通勤、休憩に関する措置などの周知、普及、また妊産婦の理解が促進されるような啓発が望まれる。それらの法令や制度について、妊婦から職場に対して配慮を求めることができるように、妊娠届け出時にパンフレットを渡すなどして情報提供することも重要であろう。

職場への期待としては、妊産婦への種々の身体的・精神的な配慮の他、職場復帰に向けての産休・育休中の職場の情報の提供や面談などを求める意見もみられた。

保育に関しては、入園待機の解消とともに、保育時間の延長・休日の保育・病児保育などの

充実を求める意見が多く得られた。また、保育園等に関する情報を求めるものや、保育園と幼稚園の教育や行事に関する差を縮めて欲しいという意見、育児休業中に上の子どもが退園しなくても良いようにして欲しいこと、雇用保険による教育訓練の際の保育を求める意見などもあった。

E. 結論

「健やか親子21」の最終評価および「健やか親子21（第2次）」の目標設定を行うことができた。

就労妊産婦の支援に関する調査は、インターネットによる偏りの大きな調査であるが、就労妊婦の状況の一端が明らかとなった。全体として多くの妊婦は職場からの配慮をされている一方で、マタニティハラスメントなど過酷な状況に置かれている妊婦もみられた。今後、就労妊婦への支援をより一層推進するとともに、マタニティハラスメントへの実効性のある対策が必要である。

今後、重点的に支援すべき対象としては、従業員数50人以上500人未満の中規模の会社、また派遣社員があげられる。法令を遵守させる仕組み、母性健康管理指導事項連絡カードを活用した支援の普及等が重要である。

就労妊産婦の支援を一層充実させることにより、仕事を継続しながら、希望する数の子どもを出産できるようにしていく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Yasuda T, Ojima T, Nakamura M, Nagai A, Tanaka T, Kondo N, Suzuki K, Yamagata Z. Postpartum smoking relapse among women who quit during pregnancy: cross-sectional study in Japan. J Obstet

Gynaecol Res. 2013; 39 (11) :1505-1512.

- 2) 尾島俊之. 小児医療水準を維持・向上させるための環境整備 ～課題3の到達点. チャイルドヘルス. 2015; 18 (4) : 292 -294.

2. 学会発表

- 1) Ojima T, Toki A, Okada E, Shibata Y, Nakamura M, Akiyama Y, Shinohara R, Yamagata Z. Research on support for working prospective mothers. Mixed Methods International Research Association (MMIRA) Asia Regional Conference. Osaka (Japan), Sept 19-20, 2015. (Abstract p84)
- 2) 土岐篤史、尾島俊之、中村美詠子、柴田陽介、岡田栄作、秋山有佳、篠原亮次、山縣然太郎. 父親の育児参加の現状と家庭状況に関する研究 - 「健やか親子21」の全国調査から - . 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年4～6日. (抄録集 p308)
- 3) 尾島俊之. 小児保健医療の課題の最終評価. 第72回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013年10月23～25日. (抄録集 p105.)

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1-1. 妊娠中の配慮(Q3.お子様(一番下の)を妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思いますか?)

	n	%
はい	110	66.3%
いいえ	49	29.5%
未選択	7	4.2%
総計	166	100.0%

表1-2. 配慮を希望したか(Q5.お子様(一番下の)の妊娠がわかってから、勤務時間や仕事内容について、自分から配慮を希望しましたか?)と、

希望した配慮は実現したか(自分から希望した配慮は、実現しましたか?)

希望した配慮は 実現したか	だいたい 実現した	実現した ものとし ないもの とある	ほとんど 実現しな かった	未選択	総計	
はい	39 65.0%	10 16.7%	9 15.0%	2 3.3%	60 100.0%	36.1%
いいえ	4	3	3	91	101	60.8%
未選択	1			4	5	3.0%
総計	44 26.5%	13 7.8%	12 7.2%	97 58.4%	166 100.0%	100.0%

表1-3. マタニティハラスメント(Q10.マタニティハラスメントを受けたことがありますか?)

	n	%
はい	51	30.7%
いいえ	102	61.4%
未選択	13	7.8%
総計	166	100.0%

表1-4. 雇用形態(Q12.お子様(一番下の)を妊娠したときの、職場の雇用形態を教えてください)

	n	%
正社員	88	53.0%
パート・臨時雇用	55	33.1%
派遣	5	3.0%
自営	3	1.8%
その他	10	6.0%
未選択	5	3.0%
総計	166	100.0%

表1-5. 出産後の就労状況(Q15.出産後、仕事はどうしましたか?現在妊娠中、育休中の人は、予定をお聞かせください。)

	n	%
育児休業後に復帰	78	47.0%
産休後に復帰	13	7.8%
退職	35	21.1%
その他	18	10.8%
未選択	22	13.3%
総計	166	100.0%

表1-6. 出産(予定)時の年齢

	n	%
～19歳	1	0.6%
20～24歳	14	8.4%
25～29歳	41	24.7%
30～34歳	62	37.3%
35～39歳	39	23.5%
40～44歳	8	4.8%
未選択	1	0.6%
総計	166	100.0%

表1-7. 現在の(一番下の)子どもの年齢

	n	%
妊娠中	37	22.3%
0歳	35	21.1%
1歳	28	16.9%
2歳	20	12.0%
3歳	14	8.4%
4歳	13	7.8%
5歳	8	4.8%
6歳以上	10	6.0%
未選択	1	0.6%
総計	166	100.0%

表1-8. 会社の規模

	n	%
9人以下	16	9.6%
10人以上	33	19.9%
50人以上	18	10.8%
100人以上	29	17.5%
500人以上	15	9.0%
1000人以上	17	10.2%
1万人以上	12	7.2%
官公庁	7	4.2%
未選択	19	11.4%
総計	166	100.0%

表1-9. 地方(職場のある都道府県)

	n	%
1_北海道・東北	24	14.5%
2_東京	29	17.5%
3_関東	22	13.3%
4_中部	32	19.3%
5_近畿	15	9.0%
6_中四国	11	6.6%
7_九州	15	9.0%
0_無回答	18	10.8%
総計	166	100.0%

表2-1. 会社の規模と妊娠中の配慮

	はい	いいえ	未選択	総計	n
9人以下	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%	16
10人以上	69.7%	24.2%	6.1%	100.0%	33
50人以上	44.4%	50.0%	5.6%	100.0%	18
100人以上	58.6%	37.9%	3.4%	100.0%	29
500人以上	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%	15
1000人以上	58.8%	41.2%	0.0%	100.0%	17
1万人以上	83.3%	8.3%	8.3%	100.0%	12
官公庁	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%	7
未選択	73.7%	15.8%	10.5%	100.0%	19
総計	66.3%	29.5%	4.2%	100.0%	166

表2-2. 会社の規模と配慮を希望したか

	はい	いいえ	未選択	総計	n
9人以下	18.8%	81.3%	0.0%	100.0%	16
10人以上	42.4%	57.6%	0.0%	100.0%	33
50人以上	33.3%	61.1%	5.6%	100.0%	18
100人以上	58.6%	41.4%	0.0%	100.0%	29
500人以上	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	15
1000人以上	17.6%	82.4%	0.0%	100.0%	17
1万人以上	8.3%	83.3%	8.3%	100.0%	12
官公庁	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%	7
未選択	31.6%	52.6%	15.8%	100.0%	19
総計	36.1%	60.8%	3.0%	100.0%	166

表2-3. 会社の規模と希望した配慮は実現したか

	だいたい 実現した	実現した ものとし ないもの とある	ほとんど 実現しな かった	未選択	総計	n
9人以下	6.3%	18.8%	0.0%	75.0%	100.0%	16
10人以上	27.3%	9.1%	9.1%	54.5%	100.0%	33
50人以上	16.7%	0.0%	16.7%	66.7%	100.0%	18
100人以上	44.8%	6.9%	13.8%	34.5%	100.0%	29
500人以上	26.7%	6.7%	6.7%	60.0%	100.0%	15
1000人以上	11.8%	11.8%	0.0%	76.5%	100.0%	17
1万人以上	0.0%	16.7%	8.3%	75.0%	100.0%	12
官公庁	71.4%	0.0%	0.0%	28.6%	100.0%	7
未選択	36.8%	0.0%	0.0%	63.2%	100.0%	19
総計	26.5%	7.8%	7.2%	58.4%	100.0%	166

表2-4. 会社の規模とマタニティハラスメント

	はい	いいえ	未選択	総計	n
9人以下	37.5%	50.0%	12.5%	100.0%	16
10人以上	33.3%	60.6%	6.1%	100.0%	33
50人以上	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%	18
100人以上	48.3%	51.7%	0.0%	100.0%	29
500人以上	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%	15
1000人以上	11.8%	82.4%	5.9%	100.0%	17
1万人以上	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	12
官公庁	28.6%	71.4%	0.0%	100.0%	7
未選択	5.3%	52.6%	42.1%	100.0%	19
総計	30.7%	61.4%	7.8%	100.0%	166

表3-1. 雇用形態と妊娠中の配慮

	はい	いいえ	未選択	総計	n
正社員	73.9%	25.0%	1.1%	100.0%	88
パート・臨時雇用	69.1%	27.3%	3.6%	100.0%	55
派遣	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%	5
自営	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	3
その他	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	10
未選択	20.0%	20.0%	60.0%	100.0%	5
総計	66.3%	29.5%	4.2%	100.0%	166

表3-2. 雇用形態と配慮を希望したか

	はい	いいえ	未選択	総計	n
正社員	40.9%	58.0%	1.1%	100.0%	88
パート・臨時雇用	36.4%	63.6%	0.0%	100.0%	55
派遣	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%	5
自営	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	3
その他	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%	10
未選択	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%	5
総計	36.1%	60.8%	3.0%	100.0%	166

表3-3. 雇用形態と希望した配慮は実現したか

	だいたい 実現した	実現した ものとし ないもの とある	ほとんど 実現しな かった	未選択	総計	n
正社員	30.7%	6.8%	8.0%	54.5%	100.0%	88
パート・臨時雇用	30.9%	3.6%	7.3%	58.2%	100.0%	55
派遣	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	100.0%	5
自営	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%	3
その他	0.0%	20.0%	0.0%	80.0%	100.0%	10
未選択	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	5
総計	26.5%	7.8%	7.2%	58.4%	100.0%	166

表3-4. 雇用形態とマタニティハラスメント

	はい	いいえ	未選択	総計	n
正社員	29.5%	62.5%	8.0%	100.0%	88
パート・臨時雇用	30.9%	65.5%	3.6%	100.0%	55
派遣	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%	5
自営	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	3
その他	70.0%	30.0%	0.0%	100.0%	10
未選択	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%	5
総計	30.7%	61.4%	7.8%	100.0%	166

表4-1. 地方と妊娠中の配慮

	はい	いいえ	未選択	総計	n
1_北海道・東北	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%	24
2_東京	55.2%	41.4%	3.4%	100.0%	29
3_関東	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%	22
4_中部	34.4%	62.5%	3.1%	100.0%	32
5_近畿	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	15
6_中四国	54.5%	36.4%	9.1%	100.0%	11
7_九州	13.3%	86.7%	0.0%	100.0%	15
0_無回答	22.2%	66.7%	11.1%	100.0%	18
総計	36.1%	60.8%	3.0%	100.0%	166

表4-2. 地方と配慮を希望したか

	はい	いいえ	未選択	総計	n
1_北海道・東北	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%	24
2_東京	55.2%	41.4%	3.4%	100.0%	29
3_関東	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%	22
4_中部	34.4%	62.5%	3.1%	100.0%	32
5_近畿	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	15
6_中四国	54.5%	36.4%	9.1%	100.0%	11
7_九州	13.3%	86.7%	0.0%	100.0%	15
0_無回答	22.2%	66.7%	11.1%	100.0%	18
総計	36.1%	60.8%	3.0%	100.0%	166

表4-3. 地方と希望した配慮は実現したか

	だいたい 実現した	実現した ものとし ないもの とある	ほとんど 実現しな かった	未選択	総計	n
1_北海道・東北	20.8%	8.3%	4.2%	66.7%	100.0%	24
2_東京	41.4%	10.3%	6.9%	41.4%	100.0%	29
3_関東	27.3%	22.7%	9.1%	40.9%	100.0%	22
4_中部	28.1%	3.1%	3.1%	65.6%	100.0%	32
5_近畿	13.3%	13.3%	13.3%	60.0%	100.0%	15
6_中四国	45.5%	0.0%	9.1%	45.5%	100.0%	11
7_九州	6.7%	0.0%	13.3%	80.0%	100.0%	15
0_無回答	22.2%	0.0%	5.6%	72.2%	100.0%	18
総計	26.5%	7.8%	7.2%	58.4%	100.0%	166

表4-4. 地方とマタニティハラスメント

	はい	いいえ	未選択	総計	n
0_無回答	22.2%	50.0%	27.8%	100.0%	24
1_北海道・東北	29.2%	66.7%	4.2%	100.0%	29
2_東京	27.6%	72.4%	0.0%	100.0%	22
3_関東	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	32
4_中部	18.8%	71.9%	9.4%	100.0%	15
5_近畿	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	11
6_中四国	18.2%	72.7%	9.1%	100.0%	15
7_九州	53.3%	26.7%	20.0%	100.0%	18
総計	30.7%	61.4%	7.8%	100.0%	166